

昭和十七年九月二十八日

醫學部第四回  
工學部第一回

卒業式に於ける總長告辭

名古屋帝國大學

本日茲に本學醫學部第四回卒業生八十四名及工學部第一回卒業生百三十名計二百十四名に對し學士試験合格證書授與の式典を舉げ、卒業生諸君の榮譽を祝し且つその前途につき所懐の一端を述ぶることを得るのは私の最も欣快とする所であります。

諸君は螢雪の効空しからず、茲に十七、八ケ年に亘る學窓生活を卒へ將に國家の中堅人物として、實社會に第一歩を印せられんとするのであります。誠に慶賀の至りで御座います。諸君はもとより、諸君を教導された各教職員特に諸君のために幾多の苦難をも忍ばれた御兩親

のお喜びは言外であると存じます。諸君はこの際久遠にして錯雜なりし過去を追懐しきだめて感慨無量なるものがあるに信じます。諸君は宜しく自分の今日ある偏に聖代の惠澤によるものであることを感激し、益々報國の誠を效すと共に學校や家庭から受けた限りもない鴻恩に對し、深き感銘と報謝の誠とを捧げなければならぬのであります。

諸君は本日正に卒業の榮を擔はれたのでありますが、これを以て學業の完成を遂げたものと思つてはなりません。卒業とは言ふもの、實は學生生活を終つたのであつ

て決して自分の目指す業を終つたのではなく、寧ろ業は今後に成し遂ぐべきものであるとの自覺を持つて貰ひたのであります。この意味に於て今日の卒業は諸君の生涯に於ける一轉換期でありますので、この機會に私の婆心から一言申述べたいと存する次第であります。

大東亞戰爭勃發以來 大稜威の下、皇軍將士の勇戰奮闘によりまして、陸に海に空に赫々たる戰果を擧げ僅に十ヶ月を出でずして、大東亞に於ける米英の勢力は擊碎せられ、東亞永遠の大計を畫する建設の鴻業は今や著々としてその巨歩を進めて居ります。然しながら私共はこ

の緒戰の戰果から心の緩みを生じてはなりません。敵國の反攻計畫はかなり彪大なるものがあり、又執拗なるものがあることは識者を俟たずして明かな所でありまして従つて今後の戰が長期に亘り、然も科學の粹を鍾めたものであることは必然であると信じます。この長期戰科學戰を戰ひ抜き最後の勝利を博するためには申すまでもなく、國民の總力を擧げ一死國に殉ずるの覺悟がなければならぬのでありまして、國家が人材を要望すること今日程切なるものはありません。この秋に當り國家の輿望を負うて卒業せらる、諸君の任務は、眞に重且つ大なるも

のがあると言はなければなりません。

諸君は今日以後或は軍務に服し、或は銃後に於て職務を奉行せらる、のであります。その職域の何たるを問はず、齊しく肇國の大精神に則り、道義的に又理性的に常に大國民の襟度を以て事に臨むの心掛が大切であると同時に、常に自分の專攻した學術の研鑽と黽勉によつて君國に仕へ、國運の伸暢に貢獻せらる、ことが最も肝要であるに信じます。而して諸君が今日まで修められた學術は基礎的のものであつて、諸君はこれを資料として、その蘊奥を極め且つ自ら創造するの心掛が

六  
大切であります。常に修練に修練を重ね一生の努力を傾け盡して、諸君が志した初一念を貫徹しなければなりません。況んや現代の學術は駸々乎として日に月に新たなものあるに於ておやであります。

翻つて諸君の入學以來のことを顧みますと本學は誠に多事でありました。昭和十四年四月創立以來時局の影響により創設事業の進捗は幾多の障害に阻まれ、殊に資材不足や教官の招聘に非常な困難を極め、加ふるに突發的な修業年限短縮が實施されました等により、教官諸君の勞苦は申すまでもなくこの間に於ける學生諸君の

不便や勉學の加重は蓋し想像以上のものがあつたこと、推察致します。然しそれにも拘らず、學生諸君は眞摯研學の態度を持ち、不撓不屈の努力を盡されました。殊に工學部に於ては機械器具等の設備が次第に遅れ勝て、漸くにして到著した實驗器具の如きは、教官を助けて共に荷物を解き共に整理する等のこともあつたのであります。即ち文字通り俱學俱進の實を擧げられたのであります。この間自ら師弟相互の意思も疎通して不言の中に薰化の實もあがつたこと、信ずるのであります。

七  
諸君の在學中は學校報國隊其他軍國の學生として修

八  
練を積まなければならぬ機會も相當に多かつたのであります。これがため一面に於ては修學の時間を割かなければならなかつたのでありますが、諸君は常に積極的に又熱心に従事されました。これにより諸君の人格の陶冶身體の鍛鍊に資すること多大であつたことは、何人も信じて疑はぬ所であります。殊に本年四月十八日、當地に於ける敵機の來襲に際し、挺身その成果を發揮せられたことはその實證とも申すべく、又誠に後進學生の範たるものご言はなければなりません。その事に對し、私は深く感謝して居ります。

九  
學術の研鑽に携はるものは、自分の仕事に熱心なるの餘り、動もするご他を顧みない獨善的の性行に傾く弊に陥ることがあります。脇目も振らずその道に精進することの大切であることは勿論であります。これがため他との協力や聯絡を忘れ、殊に他に波及する悪影響を顧みないことは社會生活の最大缺點であることを忘れてはなりません。例へば戰場に於て己が部隊の戦功をのみ急いで戦局の全體に及ぼす影響に心付かず、所謂戰鬥に勝つて戦争に敗るゝが如きことあつてはならぬのであります。諸君が今後學術の研鑽に努力せらるゝ場合に於ても、將

又實生活の體驗工夫を積まる、場合に於ても、常に自分の言行が全體に及ぼす影響に對して深く顧慮を重ね、大局のためには自己の利害を離れて相協力し、相融和し、又場合によつては自己を犠牲に供するの襟度をも持たなければならぬのであります。

本學の學園は不十分ながら著々として建設の歩を進めつゝありまして、歳と共に面目新たなるものがあるに存じます。諸君は卒業後如何なる方面に就職せらるゝにしても、私が總長懇談會に於て申した如く各其の職域に於て本學建設の一員であることを記憶せられんことを望みます。

特に工學部卒業生は眞に本學第一回卒業生でありますから、其の矜恃を以て率先して後進を導くの心掛けを持つて貰ひたいのであります。

次に諸君の注意を促したいのは健康についてであります。卒業後は生活様式の急な變化から、ために健康を損ひ、可惜有爲の材を以て空しく中道に挫折するの例は尠くないのであります。どうか諸君今後は一層精神を爽快に保ちあらゆる誘惑に打ち克ちて嚴然節度を守り周到なる注意を拂つてあくまで健康を保持し、以て如何なる身體的苦闘にも堪ふべき體位の鍊成に留意せられんことを

望みます。

最後に一言致します。今回東山の學園鏡ヶ池の畔に設備致しました職員學生集會所に「惠風亭」と命名しました。

惠風亭とは蘭亭記の「惠風和暢」から採つた語で、春風の和やかさを意味して居ります。諸君が本學を遠く去られましても惠風亭は實に古い粗末な建物であります。末永く東山の一角から春風駘蕩として喜び迎へるであらませう。

諸君が本學を去らるゝに際し一言その前途を祝福し且

つ自重自愛を祈り、所懐を述べてこれを別辭と致します

昭和十七年九月二十八日

名古屋帝國大學總長 澁澤元治